

## 海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣賞）の概要

### 1 趣旨

海洋政策を強力に推進し新たな海洋立国日本の実現を図るためには、海洋に関する国民の理解の増進を図ることが不可欠であり、海洋基本法においても、国がそのための普及啓発活動等に取り組むべきことが規定されている。

このため、平成20年より「海洋立国推進功労者表彰」を設け、科学技術、水産、海事、環境など海洋に関する幅広い分野における普及啓発、学術・研究、産業振興等において顕著な功績を挙げた個人・団体を表彰し、その功績をたたえ広く世に知らしめることにより、国民が海洋に対する理解を深めていただく契機とする。

なお、本表彰は海洋基本法に基づく海洋基本計画にも位置づけられている。

### 2 表彰者

内閣総理大臣

### 3 対象分野

科学技術、水産、海事、自然環境など海洋に関する幅広い分野での功績を対象とする。

### 4 実施省庁

文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省及び環境省が、内閣官房総合海洋政策本部事務局の協力を得ながら実施。

### 5 表彰者数

全体で8名以内（別紙1の「1「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野」については全体で4名以内、「2「海洋に関する顕著な功績」分野」については部門ごとに1名以内、計4名以内とする）。

### 6 選考の方法

- (1) 候補者については、原則として、関係省庁、関係団体、地方公共団体の推薦による。
- (2) 有識者からなる中立的な選考委員会を設置し、受賞者の選考を行う。

### 7 表彰の実施日等

毎年、7月の「海の日」前後に表彰式を行う。

また、受賞者に対しては、中央及び地方における「海の日」の関連行事等に参画していただき、海洋に関する国民一般に対する普及啓発に協力していただく。

## 第1回（平成20年）海洋立国推進功労者表彰 受賞者リスト

### 1. 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

部門	氏名・名称	年齢	所属等	功績事項
普及啓発	きょうとふりつ 京都府立 かいようこうとうがっこう 海洋高等学校	-	京都府	【総合的な海洋教育】 平成2年に全国に先駆けて学校名に「海洋」を取り入れ、平成15年には海洋科学科、海洋工学科、海洋資源科に学科改編をし、新しい海の時代の「海洋教育」としての性格を強くした。特に海洋科学科は水産・海洋系の専門高校として初めての進学系学科であり、上級学校への進学及び将来の海洋スペシャリスト育成など、幅広い進路を実現させた。
普及啓発	くりばやし ただ志 栗林 志男	71	慶應義塾大学 名誉教授	【総合的な海洋政策に関する提言】 昭和50年代後半から、海洋に関する総合的な政策枠組の必要性を提言。平成14年以降は、海洋基本法に関する主要な検討組織にとりまとめ役として参画し、平成19年の海洋基本法成立に貢献。同法成立後は、総合海洋政策本部参与会議座長として、海洋基本計画策定に当たり助言。
普及啓発	こもり よういち 小森 陽一	41	作家	【海洋に関する創作活動】 「海猿」、「トッキュー!!」、「我が名は海師」等の漫画やそのテレビ化・映画化を通じ、これまでほとんど注目されることのなかった海の安全や治安の問題、さらにはこれに関わる官民の関係者の取組みに関する国民の意識喚起・理解増進に大きく貢献。
普及啓発	ゆはら てつお 湯原 哲夫	64	東京大学 海洋技術フォーラム	【海洋技術政策に関する提言】 平成17年に「海洋産業立国」の思想の普及を目指し、産学官の海洋関連機関からなる「海洋技術フォーラム」を結成し、同フォーラムの代表となる。以降、同フォーラムの活動を通じ、新海洋産業創出のための研究開発課題、人材育成の必要性等について、第3期科学技術基本計画、海洋基本法、海洋基本計画等、我が国の海洋関連の政策策定に対して提言を行う。

### 2. 「海洋に関する顕著な功績」分野

部門	候補者名	年齢	所属等	功績事項
科学技術振興	あおき たろう 青木 太郎	61	(独)海洋研究開発機構 海洋工学センター 先端技術研究プログラム プログラムディレクター	【海洋探査技術の開発】 日本で初めての本格的な大型水中無人探査機「ドルフィン3K」(3,000m級)及び世界最深部マリアナ海域の海底に到達した「かいこう」(11,000m級)を開発し、「ナホカ号」調査、「対馬丸」H-IIロケット8号機調査に大きく貢献を果たした。また、自律型巡航探査機「うらしま」(3,500m級)を開発し、平成17年には距離317kmを連続航走し世界記録を樹立した。
水産振興	まさかたずいさんがつきゅう 象潟水産学級	-	秋田県漁業協同組合	【水産資源の増殖】 かつて2万トン近くあったハタハタ漁獲量が72トンまで激減したため、漁業者が自ら資源管理等に取組みハタハタ資源を着実に増加させてきた。特にその中でも本会は現場に根ざした独自の工夫により、古網等を利用したハタハタの産卵場造成など、水産業の振興に大きく寄与している。
海事	みなみざきくに お 南崎 邦夫	80	(株)コンプローテック 代表取締役社長	【造船の技術開発】 昭和41年に世界初の20万トン級タンカー「出光丸」の建造に大きな役割を果たしたほか、純国産技術による新たなLNG船を開発するなど、我が国の船舶建造技術の向上に先駆的な役割を果たした。
自然環境保全	うちだ いたる 内田 至	75	名古屋港水族館館長	【ウミガメの保護】 昭和30年代からアカウミガメの研究を進め保護のための基礎を築くとともに、具体的な保護活動に対しても国交省・水産庁等の行政や民間保護団体への貢献を含め、多大な実績を持つ。さらに、水族館館長としても、ウミガメだけでなく海棲哺乳類の飼育繁殖についての先進的取組実績がある。

※年齢は受賞当時の年齢。

## 第3回（平成22年）海洋立国推進功労者表彰 受賞者リスト

### 1. 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

部門	氏名・名称	年齢	所属等	功績事項
普及啓発	いしはら ともたけ 石原 義剛	72	海の博物館館長	<b>【海洋に関する文化財の収蔵・展示】</b> 三重県鳥羽市にある「海の博物館」を昭和46年から二代にわたり私財を投じて運営している。当博物館は国指定重要有形民俗文化財6,897点を含む約58,000点を展示する日本一の規模を誇る博物館として、「海」と「人間」との深い関わりを伝えている。また、海の博物館の展示だけにとどまらず、積極的に講演や海の環境問題にも力を入れている。
普及啓発	しずおかけんりつ 静岡県立 焼津水産高等学校	—	静岡県	<b>【総合的な海洋教育】</b> 永年にわたり漁業および水産加工分野を中心に水産教育を推進し、その間多くの水産関連人材を輩出した。あわせて、地域に根ざした商品の開発等でも地元の活性化に大きく貢献した。また、実習船「やいづ」は、海上保安庁へのデータ提供、国際プロジェクトであるアルゴ計画への参画など、地域を越えた貢献もしている。
科学技術	うえはら はるお 上原 春勇	70	元佐賀大学長	<b>【海洋温度差発電に関する研究】</b> 長年にわたり「海洋温度差発電」についての研究に従事し、今後の実用化に資する今までにない高効率なシステムを発明した。また、水の淡水化や水素製造に、この技術を活用する仕組みについても研究を推進した。さらに、国連本部で、海洋温度差発電についての講演を行うなど、長年に渡り研究だけではなく技術普及や啓蒙活動にも従事した。
地域振興	いしだ はじめ 石田 啓	63	金沢大学理工研究域環境デザイン学系教授	<b>【工学的知見を用いた景観保全】</b> 「寄り回り波災害」において軽減効果を発揮した富山湾の新型有脚式離岸堤の建設指導や日本三大松原の一つである気比松原の優れた景観を損なうことなく養浜を成功させ観光客の増加に寄与する等、30年以上に亘り、海岸工学や流体力学の学術知見を基に、北陸沿岸全体の海岸や港湾の計画・保全に努め、種々の問題解決を図った。

### 2. 「海洋に関する顕著な功績」分野

部門	候補者名	年齢	所属等	功績事項
科学技術振興	たかはし けいぞう 高橋 孝二	62	九州大学大学院教授	<b>【海洋における気候変動研究】</b> 厳しい気象環境のため、過去にほとんど行われなかった北極域における海洋調査を国際プロジェクトとして推進し、海洋による二酸化炭素の吸収・放出、生物による炭素の固定化など地球温暖化について理解を深める上で重要な極域での炭素循環の解明に貢献。5000万年前の温暖な時代の北極海の様子を明らかにするなど成果をあげた。
水産振興	きんぎ だいごくすいさんけんきゅう 近畿大学水産研究所	—	学校法人近畿大学	<b>【クロマグロの完全養殖と量産化】</b> 近畿大学水産研究所では、2002年に世界で初めてクロマグロの完全養殖を達成した。その後も生残率の向上など産業界を目指した研究を続けた結果、完全養殖クロマグロ幼魚の養殖用種苗の生産尾数が2009年には約4万尾に拡大した。クロマグロをめぐる国際的な資源問題の解決策を提示した。
海事	なかむら つねお 中村 庸夫	60	海洋写真家	<b>【海洋に関する芸術活動】</b> 海洋写真家の第一人者として、帆船や客船の写真のみならず、海洋生物、海の食材等の写真を通じ、日本の海洋文化を諸外国に紹介した。また、世界各国の船を日本において紹介し、双方の海事思想の普及に寄与した。

※「自然環境保全」部門については該当者なし。  
※年齢は受賞当時の年齢。

## 第5回（平成24年） 海洋立国推進功労者表彰 受賞者リスト

### 1. 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

部 門	氏名・名称	年 齢	所 属	功 績 事 項
普及啓発	かたまたか 片田 敏孝	51	群馬大学広域首都圏 防災 研究センター長・教授	【釜石の奇跡】に結実した津波防災教育】 自然に対する畏敬の念を再認識し、自らの命を主体的に守る姿勢の重要性に気づかせることを主眼とし、①想定にとらわれるな、②その状況下において最善を尽くせ、③率先避難者たれ、という「避難3原則」を掲げ、釜石市において8年間にわたり継続的に津波防災教育に取り組んできた。この結果、東日本大震災の際には、釜石市の小中学校の生徒約3000人が避難行動をとり、命を守り抜いた。
普及啓発	さかなクン	—	東京海洋大学 客員准教授	【お魚文化の普及啓発】 海洋政策を推進するには、国民の理解・関心を高めることがなによりも大切なものとなっている。こうした中、メディアや著作等を通じた情報発信は、子供から大人まで幅広い層の国民にお魚、水産、地球環境保全など海洋全般への関心を大いに高めることに貢献している。また、東日本大震災後は、全国漁業協同組合連合会等と協力し、募金活動を行うなど被災地を勇気づける取組にも尽力した。
普及啓発	びわ湖フローティング スクール	—	滋賀県教育委員会	【船の教育的機能を活かした宿泊体験学習】 青少年の健全な育成及び琵琶湖の環境保全を目的として、昭和58年から琵琶湖上において、学習船「うみのこ」（総トン数928トン）による、滋賀県内の全小学5年生を対象に、船ならではの宿泊体験学習を実施。地方自治体自らが船を所有し、船の教育的機能を小学校の教育課程に明確に位置付け、学校教育の一環として船内での湖上宿泊体験学習を実施していることは全国に類を見ない教育活動として注目されている。
科学技術	うえ しんいち 上 真一	62	広島大学理事・副学 長 (平和・国際担当)	【クラゲ類の大発生に関わる研究】 近年、本邦沿岸漁業や臨海発電所の操業等に深刻な被害をもたらしているクラゲ類の大発生が沿岸生態系に対する人為的インパクトに起因することを明らかにした。特に、これまで謎であったエチゼンクラゲの発生場所、発生条件等を解明し、中国沿岸から黄海・東シナ海から日本海への幼若クラゲのモニタリングにより、クラゲ来襲予測体制を確立し、エチゼンクラゲ大発生に対する対策に貢献した。

### 2. 「海洋に関する顕著な功績」分野

部 門	氏名・名称	年 齢	所 属	功 績 事 項
科学技術振興	ふかさわ まさお 深澤 理郎	62	独立行政法人 海洋研究開発機構 地球環境変動領域長	【世界初の深海温暖化の実証】 海洋の高精度観測技術を確立し、観測データにより太平洋深層における海水温上昇を世界で初めて明らかにし、温暖化に伴う深層循環の変化の可能性について指摘した。さらに海洋観測の第一人者として全球海洋観測の国際的枠組の構築に貢献したほか、東日本大震災後にいち早く放射性物質の海洋モニタリング・シミュレーションを実施した海洋研究開発機構において、この業務を統括した。
水産振興	にほん かいほく 日本海北部ニシン 栽培漁業推進委員会	—	—	【漁業者主体の取組による北海道ニシン資源の復活】 全国でも稀な漁業者自らが資金を出し合うなどの自主的・主体的な人工種苗放流事業を行う継続的な取組は、明確な漁獲量の増大に結びつき、資源管理に大きく寄与した。このことで、北海道の春の風物詩を復活させ地域振興にも貢献した。当該委員会の行う仔稚魚期の分布状況調査や生物測定調査は、効果的な資源管理に資する取組で資源管理の優良事例として大いに注目されている。
海事	ほしの じろう 星野 二郎	82	三井造船㈱元社長	【造船技術の高度化による海洋技術の発展】 「かいこう」、「2D4」等の開発・建造等、無人探査技術の高度化に努め深海開発分野で先駆的な役割を果たすと同時に、TSLの開発等により高速海上輸送システムの確立に主導的な役割を果たした。その他「半潜水型海中展望船」、「FPSO」の開発・建造等により、我が国の海洋調査・開発技術を世界最高レベルに引き上げ、青少年に海洋技術についての夢を与えると同時に、造船業から海洋産業への新たな発展の礎を築いた。
自然環境保全	とくでいり えいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人 くろしおつかん 黒潮実感センター	—	—	【持続可能な里海づくり】 「自然を実感する取組」、「自然を活かした暮らし作り」、「自然と人との共生」を柱に、地元事業者、地域住民や行政、大学等の様々な主体と連携し、里海を人と海が共存できる海と捉え活動している。その取組は、子どもたちの環境教育にも活用されている他、近隣の市町村にも拡大し、エコツーリズムによる地域活性化等のテーマで全国から注目されている。

※年齢は受賞当時の年齢。

## 第7回（平成26年） 海洋立国推進功労者表彰 受賞者リスト

### 1. 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

部門	氏名・名称	年齢	所属	功績事項
普及啓発	えど こづ 江戸っ子1号プロジェクト	-	-	【深海を身近に引き寄せた純国産探査機の開発】 下町の中小企業等が、多数の機関を巻き込み、海洋を手軽に探求できる低コスト高性能の純国産海洋探査機「江戸っ子1号」を開発。世界で初めて、水深8,000m海域における深海魚の3Dハイビジョン撮影に成功した。テレビや新聞等多くの取材や報道を通じて、国民各層の海洋への理解促進に貢献した。
普及啓発	かいようせいけんけんこうだん 海洋政策研究財団 (シップ・アンド・オーシャン財団)	-	-	【人と海洋の共生を目指した海洋政策確立への貢献】 海洋基本法研究会の事務局として、海洋基本法・海洋基本計画の制定及び改定に貢献するとともに、海洋教育の普及促進にも早くから取り組み、我が国の海洋教育発展における基盤構築に大きな役割を果たした。また、リオ+20をはじめとする国際会議に主要メンバーとして参画し、国際社会における海洋政策の確立に尽力する他、北極海航路の啓開事業や海洋に関する情報発信を積極的に行うなど、海洋政策の普及啓発に努め、幅広く活動している。
普及啓発	くぼら づねみ 窪寺 恒己	62	国立科学博物館・標本センター・コレクションディレクター	【ダイオウイカの調査・研究を通じた深海生物に関する普及】 深海の生物・ダイオウイカの調査・研究に取り組み、2012年には人類で初めて、深海に生きたダイオウイカとの遭遇を果たす。未知の生物をとらえたその映像はドキュメンタリー番組として国内外に大きな驚きを与えた他、監修を行った特別展「深海」には3ヶ月で60万人近い来場者が訪れ、深海生物に対する国民の興味関心を高めることに貢献した。
産業振興	たけい しづみ 武井 俊文	83	(株) IHI	【わが国海洋産業の振興への貢献】 (社)経済団体連合会海洋開発推進委員会の委員長として、わが国周辺の高感度資源の探掘権の拡大のために実施された大陸棚画定調査に民間側の横断的な協力体制をとりまとめ、国とともに取り組む民間出資の新会社「日本大陸棚調査(株)」の設立に道筋をつけ、産学官の連携体制の構築に尽力するなどわが国の海洋産業の振興に多大な貢献をした。

### 2. 「海洋に関する顕著な功績」分野

部門	氏名・名称	年齢	所属	功績事項
科学技術振興	さの ゆうじ 佐野 有司	58	東京大学 大気海洋研究所	【海洋地球化学の先端的研究開発】 4種類の高感度質量分析計を駆使して、高解像度の海洋古環境復元や深部流体移動と海溝型巨大地震の発生、海洋深層循環と物質循環など海洋地球化学を中心とした様々な分野において優れた成果を生み出した。その成果は科学雑誌ネイチャーに6報、ネイチャー姉妹誌に4報、サイエンス誌に2報の論文を含む多数の英文査読付き雑誌に発表されている。
水産振興	しんまつらぶらぶらぎょうどうくみあい 新松浦漁業協同組合 じょせいぶ 女性部	-	-	【漁村への民泊・修学旅行誘致、魚食普及・魚料理教室の取組】 1. 都市部の修学旅行生を対象とした漁村民泊の取組により、漁家の経営安定や地域の活性化に貢献。 2. 子どもたちや保護者を対象とした親子魚料理教室等の開催により魚食普及に尽力するとともに、水産業への理解を深めることに寄与。
海事	つた たか輝 津田 高輝	72	-	【産学官が一体となった日本主導による戦略的国際基準策定等のための仕組みの構築】 我が国海事産業の国際競争力強化を目的として産学官が一体となった戦略的国際基準策定のための仕組みを構築し、外国船舶からの二酸化炭素排出削減にかかる国際基準等、我が国の海事分野に大きな影響を与える国際基準の策定において中心的な役割を担った。また、現在、世界の海洋資源開発プロジェクトで最も注目されているブラジルへ我が国造船業が進出するための素地を作った。
自然環境保全	まくらい すすき 桜井 泰憲	63	北海道大学大学院 水産化学研究院	【海洋生物多様性保全に対する専門的助言】 専門分野であるイカ類の生態や資源変動機構に関する研究等を通じ、資源管理に有益な助言を与えた。また、知床世界自然遺産地域科学委員会委員として、遺産登録に貢献し、漁業者による自主的管理を知床の海域管理計画に位置付けるなど、漁業と海洋生態学をつなぐ視点から海洋生物多様性保全に貢献した。

※年齢は受賞当時の年齢。

## 第9回（平成28年） 海洋立国推進功労者表彰 受賞者リスト

### 1. 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

部門	氏名・名称	年齢	所属	功績事項
普及啓発	かごしまけりつ 鹿児島県立 かごしませいぎんこうこう 鹿児島水産高校	-	-	【地球環境に貢献する海象・資源調査及び海運業界後継者育成】 総合海洋政策本部第2期参与会議座長として、海洋基本計画改定に着手し、政府の海洋分野施策推進に貢献された。 また、総合的な海洋政策の形成を目指す日本海洋政策学会初代会長として、海洋政策の発展に資する学術研究を主導することにより、広く国民に対し海洋政策の啓蒙活動に尽力された。 さらに、第1回から第8回までの海洋立国推進功労者表彰選考委員会委員長に就任され、中立的な立場である選考委員会での議論を取りまとめる重責を担った。
普及啓発	こみやま ひろし 小宮山 宏	71	(株)三菱総合研究所	【総合的な我が国海洋政策の推進に関する取組】 総合海洋政策本部第2期参与会議座長として、海洋基本計画改定に着手し、政府の海洋分野施策推進に貢献された。また、総合的な海洋政策の形成を目指す日本海洋政策学会初代会長として、海洋政策の発展に資する学術研究を主導することにより、広く国民に対し海洋政策の啓蒙活動に尽力された。 さらに、第1回から第8回までの海洋立国推進功労者表彰選考委員会委員長に就任され、中立的な立場である選考委員会での議論を取りまとめる重責を担った。
科学技術	うらまつ みつお 植松 光夫	63	東京大学大気海洋研究所	【海洋・大気科学における多分野横断型研究】 「海洋大気エアロゾル組織の変動と影響予測(平成10年採択)」の研究代表者として、陸上から海洋へ運ばれてくるエアロゾルや気体成分を基に、その実数値と数値計算技術を用いて東アジア域での化学天気予報を実用化し、大気中化学成分濃度の予測を可能とした。また、研究成果は、世界的に著名な科学雑誌である「Nature/Science」誌に3報の論文を含む103報の英文査読付きのSCI準拠論文として発表。さらに、当該論文は、海洋化学分野のトップクラスのものであり、数々の賞を受賞し海洋立国日本への海洋化学分野において貢献している。

### 2. 海洋に関する顕著な功績」分野

部門	氏名・名称	年齢	所属	功績事項
科学技術振興	みのべ しよえろう 見延 庄士郎	53	北海道大学大学院・理学研究院・地球惑星科学部門	【海洋と大気の物理的な相互作用の研究】 海洋は大気と並ぶ二大流体圏の一つであり、特に海洋と大気の物理的な相互作用と変動は地球の気候に大きな影響を及ぼす。氏は、北太平洋全域におよぶ大気と海洋に50～70年変動と20年変動を発見し、20年変動が日本を含め太平洋と周辺領域の降水な及ぼす影響を同定された。また、熱帯から膨大な熱を運び大気に放出する暖流が、大気の大気自由対流圏を貫くように、その上層まで影響することを発見し、Nature表紙論文として報告し国内外の研究発展に大きな影響を与える等、海洋大気の変動と相互作用の研究に貢献された。
水産振興	ひがあ わげよとよとみ 東安房漁業協同組合 えいりぎょたいかいじつこういんかいれんらく 営漁計画実行委員会連絡 きようぎょかい 協議会	-	東安房漁業協同組合	【アワビ輪採方式の開発と確率】 昭和50年代から、アワビの漁獲減と大型貨物船の座礁を契機として、アワビ造成漁場による輪採方式を導入、推進した。アワビ輪採漁場を旧安房郡千倉町全体に広げ、輪採漁場からの水揚げは、近年5～6トンで推移し、アワビ漁獲量は10%～25%を占めるまでに至った。
海事	みはら ひろしげ 三原 廣茂	68	(有)三原汽船	【内航船における我が国初となる女性管理職の登用】 従前、男性社会と言われ女性の活用に消極的であった内航海運業界において、平成10年から女性の採用を行っており、現在、同社における女性船員の占める割合は約20%（全国平均1.6%）に上る。また、平成21年7月には、当時28歳の女性船員（寺田美夏氏）を内航海運業界では初となる船長に登用し、さらに、結婚、出産後も引き続き就労できる環境作りも行っており、時代に先駆け女性の活用に積極的に行った。
自然環境保全	ひなせちようぎょとよとみ 日生町漁業協同組合	-	-	【アマモ場の再生】 アマモ場再生活動発祥の地として知られている日生町漁業では、昭和60年から30年もの長きにわたり活動を継続してきた。その結果、一時は12haまでに減少した日生町地先のアマモ場は、約250haまで回復した。近年では、漁業者だけでなく、消費者団体や次世代を担う生徒・学生たちも活動に参加し、活動の輪は新たな広がりを見せ、世界各国において模範とされ紹介されている。（地域環境美化功績者表彰(漁業者による海底ゴミの回収活動・平成22年度)）

※年齢は受賞当時の年齢。

## 海洋立国推進功労者表彰の対象分野

### 1. 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

- (1) 「普及啓発・公益増進」部門  
海洋に関する普及啓発・公益増進の著しい功績
- (2) 「科学技術・学術・研究・開発・技能」部門  
海洋に関する優れて画期的な科学技術・学術・研究・開発・技能の成果
- (3) 「産業振興」部門  
海洋に関する産業分野での優れて画期的な経営革新等
- (4) 「地域振興」部門  
海洋に関する分野での優れて画期的な地域振興施策

全体で4名以内（1部門で複数受賞可）。

### 2. 「海洋に関する顕著な功績」分野

- (1) 「海洋に関する科学技術振興」部門  
海洋に関する科学技術分野での研究開発
- (2) 「水産振興」部門  
水産業の振興、水産分野の研究・技術開発
- (3) 「海事」部門  
海運、造船、船員、港湾、海上保安等海事関係事業の振興
- (4) 「自然環境保全」部門  
海洋に関する自然環境の保全

各部門1名以内、計4名以内。既存の各省大臣表彰を経たもの。

2分野合わせて8名以内